

# 瀬戸内学園広報紙

発行 社会福祉法人 瀬戸内福祉事業会

- 瀬戸内学園
- 根っこ せとうち
- つばせせとうち
- ケアホームせとうち
- ふたば
- クローバーせとうち
- つなぐ せとうち

発行責任者 遠藤 幸雄

〒712-8015 倉敷市連島町矢柄6092 ☎086-448-1811

# せとうち

復活！春の行事  
みんなの春祭り  
4月6日(土)開催!!  
詳細は2面をご覧ください



ジェラート屋さんに行きました



トリックオアトリート！ハロウィン



## 最近のご利用者の様子



グランドゴルフ、楽しいな



運動会で大熱戦！



アリオ倉敷に行ったよ！

## 障がい者福祉と私

瀬戸内学園 山中 庸平

障がい者福祉と出会ったのは、大学時代に実習先で行った授産所でした。その授産所では下請け作業を担っており、私はご利用者が行なう下請け作業のサポートが主な実習内容でした。そこで、私がご利用者のためにと思い、事前に委託品であるハンガーを選別しておく、後でご利用者がそれを元に戻されるということがありました。「親切にと思ってしたことがご利用者にとってはそうではなかった」というこの経験が、私が障がい者福祉に興味を持つきっかけでした。そして、大学卒業後に実習でお世話になった授産所と同法人の入所施設に入職することになりました。そこで職場の先輩から言われた今でも忘れられない言葉があります。それが、「この仕事にベストはない。ベターを見つければいいよ」ということでした。当時の私はその言葉の意味がすぐに理解できませんでした。日々の支援において、これをすれば絶対大丈夫・失敗しないというものはあり得ません。人と人が接する仕事なので、その時の環境(暑い・寒い)やお互いの精神状況(楽しい・感情が高ぶっている)によって必要な支援は変わります。様々な状況から推測して、職員はご利用者にとって必要な支援を選択していく必要があると思います。そのためにも職員・ご利用者ともに様々な経験を一緒に積み上げていくことがより良い関係を構築できると考えています。

で地元のサッカーチームに入っていた方、社会人になってからサッカーを始めた方など様々な方がいます。サッカーに対する理解度も違うため、プレーできる方に合わせるとうつない方が困っていたり、できない方に合わせるとうつない方がつまらなくなったりします。そのため、個人ではなくチームが強くなるため(勝つため)に練習していることや、できない方に怒るのではなくアドバイスをするように伝えていきます。そうすることで、怒っていた方も徐々にアドバイスをされる様子が見られ始め、チームとして頑張ろうという意識が変わっていくことが嬉しかったです。

話は変わりますが、私は小学3年生からサッカーを始めて現在も続けています。そんな中、知り合いを通じて障がい者サッカーに出会いました。基本的には、療育手帳を持たれており知的障がいのある方を対象としています。選手には中学生ま

「今日のこの時間は、できないことを伝えるのではなくできたことをたくさん褒めてあげてください。」ということですが、サッカークラウドに触ることがない方もいれば、すぐに手で触ってしまう方もいます。ですが、手でボールを前に転がすことができれば「ナイス」と声を掛けるようにしています。そうすると、みんな嬉しそうにしたり、もっと一生懸命にプレーをしたりします。多くのボランティアの方と一緒に楽しそうにサッカーボールを蹴っている姿は、とても微笑ましいです。

これからも、仕事やサッカーを通じて一人でも多くの方の笑顔に出会い、私自身ももっと成長できるように頑張りたいと思います。



### 「お祝いの会」を行ないました

8月1日の瀬戸内学園創立記念日に合わせてお祝いの会を行ない、その中で成人・還暦・古希・喜寿のお祝いもしました。今年度は下記の方々がお祝いを受けられ、皆さん記念写真を撮られました。事業所ごとで記念品贈呈とともに、美味しい食事やおやつを飲食される等して、他のご利用者に囲まれながら楽しい時間を過ごされました。それぞれの節目を迎えられた皆さん、おめでとうございます！

#### 瀬戸内学園



岡田 絵美様 60歳 還暦



長谷川 浩治様 60歳 還暦  
花岡 片志様 70歳 古希

#### 根っこ せとうち



演田 悠希様  
20歳 成人

高木 伸様  
60歳 還暦

山口 憲一郎様  
60歳 還暦

#### つばさせとうち



澤木 優仁様 20歳 成人

#### ふたば



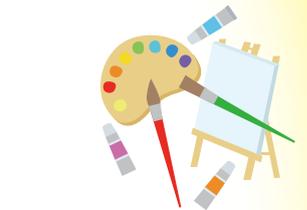
番匠 愛子様 77歳 喜寿

## きらぼし★アート展

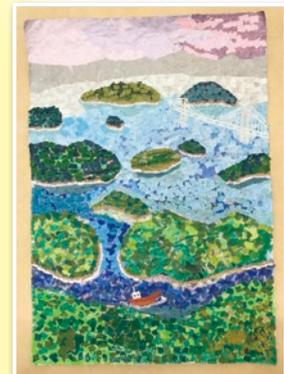
岡山県内の障がいのある人、一人ひとりが内包する個性と表現力を放出し、星のように輝いてほしいとの願いを込めたアート展「第7回きらぼし★アート展 輝いて生きる星たち」が開かれました。今年は赤磐市の桜ヶ丘いきいき交流センターやきらぼしアートセンターでの開催となり、瀬戸内学園グループからは3作品が選ばれて展示されました。ご利用者の思いが込められた力作をここでご紹介させていただきます。



「よみ鳥」  
大西正太様  
(つばさせとうち)



「遠くの星」  
小川智之様  
(つなぐ せとうち)



「瀬戸大橋」  
三宅信雄様、山口憲一郎様、桜秀文様、  
石原麻紀様、佐々井喜正様 等  
(根っこ せとうち 合作)

**編集後記**  
瀬戸内学園では、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、少しずつ以前のような生活を取り戻しつつあります。買い物をする機会も増え、バスや公用車を利用するの外出も再開しました。それにより、ご利用者の笑顔が施設・事業所内であふれるようになり、ご利用者の幸せを日々追求し、気持ちに寄り添い続けていくことが大切だと実感しています。今後も社会情勢の変遷に対応する中で、「私たちの仕事とは何か、その原点に戻り、ご利用者のために最善の努力を尽くしたい」と思います。  
(編集部 一回)

## クリスマス会

令和5年12月25日に瀬戸内学園でクリスマス会が開かれました。今年は瀬戸内学園グループやグリーンピア瀬戸内の職員で楽器経験者が集い、「ハートフルせとうちアンサンブル」という音楽隊を結成。瀬戸内学園のクリスマス会だけでなく、グリーンピア瀬戸内やグリーンビレッジ瀬戸内でも素晴らしい演奏を披露してご利用者の皆さんを楽しませてくれました。



## 「障害者虐待防止スローガン」コンテスト受賞

岡山県障害福祉施設等協議会主催で「障害者虐待防止スローガン」コンテストの募集があり、瀬戸内学園の職員、三神敬子さんの作品「その言葉 発する前に“心”呼吸」が見事、最優秀賞に選ばれました。

令和5年12月13日にきらめきプラザで行われた表彰式に招かれ、同協議会の会長から表彰状を受け取りました。

三神さんから「余裕がないときはひと息つき、落ち着いて対応する自分の心がけを標語にしました。丁寧な支援に努めていきます」というコメントをいただきました。

その他にも、以下の方々がお賞作品として選ばれました。受賞された皆さん、おめでとうございます！

優秀作品 職員 竹安宏さん、岡田真希さん、藤澤充さん  
職員関係者 迫田みな海さん